



高原の自然館ニュースレター

# 苅尾電波塔

第107号

2012.12.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。  
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつかっています。

## もくじ

### お知らせ

ー冬期閉館について

### 活動報告

- ー八幡高原の野鳥観察会
- ー紅葉・冬芽の観察会
- ーかんじき作り

### 観察会案内

- ー冬を生きる動物の生態
- ー雪原のトレッキング
- ー早春のトレッキング

## お知らせ

### ● 冬期閉館について

高原の自然館は、冬期閉館中です。ご来館の際はご注意ください。なお、冬期閉館中の連絡先は下記のとおりとなります。

冬期閉館期間：11月26日～4月24日

連絡先：北広島町役場芸北支所

〒731-2323

広島県山県郡北広島町川小田75

メール：staff@shizenkan.info

電話番号：080-6334-8601

FAX：(0826) 35-0386

### ● 「生物多様性きたひろ戦略(案)」に関するパブリックコメント募集のご案内

北広島町では、町民の豊かな生活に欠くことのできない「生物の多様性」を将来にわたって活用していく目的で平成21年度に「北広島町生物多様性の保全に関する条例」を制定し、「生物多様性きたひろ戦略」を検討し、進めています。「パブリックコメント（意見公募）」で、皆様のご意見を募集しています。

詳しくは、北広島町ホームページをご覧ください

北広島町ホームページ：<http://www.town.kitahiroshima.lg.jp/>

## 観 察 会 報 告

### ● 八幡高原の野鳥観察会

開催日時：2012年11月17日（土）9:30

講師：上野吉雄

例年より遅めの11月13日に初雪が積もりました。雪から雨に変わったお天気の中、15名のみなさんが高原の自然館に集合しました。最初に、今回の講師である上野先生から、高原の自然館の展示パネルを使って、八幡高原に生息する鳥の解説がありました。

渡りの途中に立ち寄る鳥を旅鳥というそうです。この時期は旅鳥を観察できる貴重な時です。今回はどんな鳥に出会えるかを楽しみにフィールドにでました。

湿原や田んぼを4ヶ所まわり、全部で22種類の鳥もしくは鳥声を確認しました。

自然館前で観察したヒレンジャク・キレンジャクは群れになっており、それぞれの大きさや、尾羽の色の違いを見ながら、種を確認しました。

また、昨年に続きシラガホオジロも観察することができました。今年はまだ確認されておらず、今回も見れないかな？とあきらめていましたが、参加者の方の発見で、電線にとまるシラガホオジロをじっくり観察することができました。名前の由来の通り、頭頂部が白くなっているのもしっかり確認しました。シラガホオジロが定期的に渡来するのは日本国内でも、3地点くらいだそうです。八幡高原が数少ない観察地点であることに驚きつつも、観察できる喜びを感じました。落ち穂などを食べるため、田んぼが雪に覆われる頃には移動するようなので、観察できたことは本当に貴重な体験でした。参加者も、双眼鏡を何度ものぞきこみ、口々に感想を言いあっていました。

他にも、コガモの群れやシジュウカラ、コガラ、エナガ、コゲラの混群、カワガラスやカケス、カシラダカも見ることができました。

どんな実がどんな鳥のえさとなるかや、植物と動物との関係など、鳥の観察だけではなく、広い視点での上野先生の解説も、興味深く聞きました。

[ ころのやよい ]

※写真の一部を吉岡透さんに提供していただきました。ありがとうございました。



高原の自然館内で上野先生から野鳥のレクチャーを受けた。



自然館前の駐車場に出ると激しい雨…。



雨の中でもレンジャクの仲間が群れになっていたのを観察中。





人家に近い電線にシラガホオジロが止まっていることがあると聞き、参加者全員で目をこらして見渡すと…



昨年はコガモを観察した新川ため池。水鳥がいるかな??



シラガホオジロの姿をじっくり観察。名前の由来の通り、白い頭頂部が見えた。



湖面を観察する上野先生。雨のせいか、一匹も鳥はいなかった。



いったん積雪があり、雪がとけた田んぼ。秋と冬が混在する八幡高原の風景。

### 【みなさんの印象に残った物】

「雨でも飛んでいる鳥がいるというのが、私の中では大発見でした」「レンジャク、シラガホオジロが見れてよかった」「キレンジャク、ヒレンジャクを初めて見たこと」「シラガホオジロ。この時だけ雨が上がってよかった (5)」

### 【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「探鳥会の回数を年3回くらいにして欲しい」「上野先生のお話通り雨の中でもしっかりと鳥を見ることができて感激。鳥も食べるために一生懸命なのだと実感」「雨の中でもたくさんの鳥に出会えた (2)」「寒い中でも生きていくたくましさを感じました」「雨だったけどどうれしい探鳥会でした」

## 観 察 会 報 告

### ● 紅葉・冬芽の観察会

開催日時：2012年12月1日（土）13:30

講師：斎藤隆登

八幡高原では、木が葉を落とし、いつ雪景色になってもおかしくない時期です。この日も白いものが舞っていました。それでも、8名が参加して、樹木の観察会が実施されました。

野外で観察をする前に、高原の自然館内で、齋藤先生に「冬の樹木の見方」を教えて頂きました。樹木を見る際に、夏であれば葉や花を頼りにしますが、冬には皮目や、冬芽、枝振りなどがヒントになります。冬の観察では、夏とは少し違った視点が必要で、難易度が高いようにも思えます。しかし、皮目・冬芽・枝振りなどは、夏にも見ることができるので、実は、冬に樹木を見ておくことで、夏の観察も、より楽しくできることになります。そんな話しを、実物の枝や資料を見ながら聞かせて頂きました。特に、齋藤先生が配布してくださった、自筆の線画が101種掲載されている「広島県産落葉樹木冬芽図譜」は、広島県内に生育する樹木のスケッチが載っており、みなさんに好評でした。

室内で講義を聴いた後、おーいの丘まで歩きながら観察をしました。ツノハシバミ、ヤマザクラ、コマユミ、ウワミズザクラ、クリ、ヤマボウシ、コナラ、ミズナラ、クロモジ、ヌルデなど、どれも身近な植物ですが、冬の姿を観察することで、新たな一面が見えてきます。ヌルデは葉の主軸が冬芽を包んでいること、クロモジの冬芽は花を付けるものと葉だけのもので形が違うことなど、冬だからこそ見えてくる特徴があることに気付きました。

冷え込みが厳しく、外を歩いたのはわずかな時間でしたが、室内の講義があったおかげで「どのような部分に着目すれば良いのか」を気にしながら観察することができました。植物観察の楽しみが広がった観察会でした。

[ しらかわかつのぶ ]



齋藤先生から図鑑などを見ながら、「どこに着目するのか」という話しがあった。



実物の枝と、先生自筆の図版を見ながら話しを聞いた。



小さい冬芽はルーペで観察。





屋内の講義の後には、観察のため、外に出た。



並んで生えている木を比べながら観察した。



ここでもルーペが登場。



ヌルデの芽鱗痕を観察中。



たくさんの冬芽を付けたクロモジ。

### 【みなさんの印象に残った物】

「ウワミズザクラの芽」「冬芽をじっくり見ればひとつひとつ特徴があり面白いです。雪山に登る際に楽しみが増えました」「花芽と葉痕とのあとが見られたので良かった」「ふだん気づかない所も細かく観察でき、検索の手助けになります」「木々がしっかり冬芽をつけ来春を迎える準備をしていたこと」

### 【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「天候が少しきびしかったが、とても参考になりました。説明がよくわかりました」「寒かった～」「はじめて冬芽の観察会に参加しました」「先生はよく観察されていると思いました」「小雪の中で寒い日ではあったけど、大変楽しく冬芽の観察が出来よかったです」



## 観 察 会 報 告

### ● かんじき作り

開催日時：2012年12月9日（日）10:00

講師：坂井健作

景色が一面真っ白になるほど降り積もる雪の中、7名がかんじき作りに集合しました。今回の講師は「きたひろしまの名人」に認定されている坂井健作先生です。

最初に、ロープを8m50cmに切り、準備します。切った所からほつれないようにビニールテープを巻きます。次に、自分にあった木杵を選びます。今回使う木はミヤマガマズミです。軽くて柔らかく、熱での加工がしやすいのが特長で、坂井先生が木を切り、曲げて、木杵にする作業をていねいにして下さっていました。

いよいよかんじき作りです。まず、右足から作っていきます。参加者は坂井先生の手先に視線を集中させ、手順を覚えて一緒に作っていきます。時折分からなくなるとは教えてもらうことを繰り返し、完成に近づいていきましたが、最後の段階で結ぶ「男結び」という結び方が難しく、去年のかんじき作りに参加された方も「1年経つとすっかり忘れてるものですね」と苦戦されているようでした。時間をかけて右足部分が完成すると、次は左足部分を作っていきます。最初に比べると慣れた手つきになり、右足の時よりも早い時間で完成することが出来ました。

完成した後も、男結びをマスターしようと頑張ったり、かんじきの履き方を学んだり、あっという間の2時間でした。また、自分が作ったかんじきでウォーキングをしたというお話や、違う造りのかんじきを見せていただいたりと、なごやかな雰囲気のかんじき作りをすることができました。今年は積雪の時期が早く、かんじきの出番も多そうです。自分の作ったかんじきで雪の上を歩くのがとても楽しみです

[ はたもとやすひこ ]



長さをそろえるために、しっかりと固定してロープを切っていく。



始まりの挨拶。「先生と呼ばれると照れてしまう」と参加者と一緒に緊張する坂井先生



大きさを基準に自分の足に合った木杵を選んでいく。

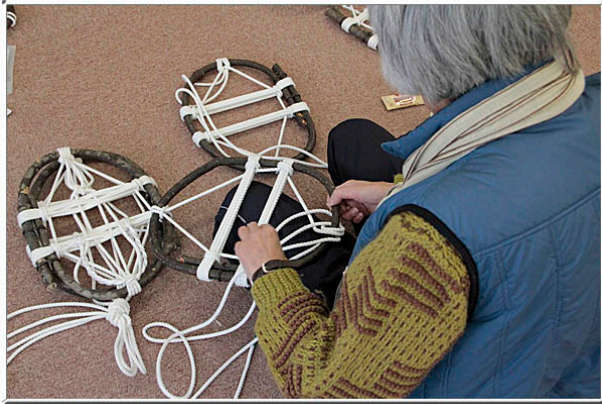




まずは右足から製作開始。間違えないよう、忘れないよう、坂井先生をお手本に、ゆっくりと巻き付ける。



結び方の練習中。履きごちはどうかな？



右足が終われば今度は左足。慣れた手つきで作っていく。分からなくなったらお手本を参考に。



完成したかんじきを手に記念撮影。しっかり出来てみんな満足！



一番苦戦した男結びを勉強中。みんな出来るようになろうと坂井先生の手動きに視線が集中する。

### 【みなさんの印象に残った物】

「木枠とヒモ一本でモノが出来ていくすごさ」  
「男結びが難しかったです(4)」  
「1年たてばいつも白紙です」

### 【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「完成した時の感動がすごい」「全体的に良かったです」  
「男結びはむずかしい」「手しごとのむずかしさ、大切さを実感した。木のぬくもりあるものをのこしていきたい」  
「皆が楽しくできた良かったです」

## 観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

**基本セット**：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

**作業セット**：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

### ● 冬を生きる動物の生態

開催日時：2013年1月14日（月・祝）10:00  
集合場所：高原の自然館  
講師：上野吉雄  
準備：基本セット、かんじき・スノーシューなど  
参加費：一般=300円  
賛助会員=100円  
正会員・中学生以下=無料  
かんじきレンタル=400円

おーいの丘をめざし、千町原を歩きます。動物たちの足跡からどんなことがわかるでしょう？真っ白い雪の上にいきものの姿はあるのでしょうか？かんじきやスノーシューを履き、歩きながらいきものの姿、サインを探しましょう。

### ● 早春のトレッキング

開催日時：2013年3月24日（日）10:00  
集合場所：高原の自然館  
講師：上野吉雄  
準備：基本セット  
定員数：30名  
参加費：一般=300円  
賛助会員=100円  
正会員・中学生以下=無料

春はどこまで八幡高原に近づいてきているのでしょうか？雪が残るなか、いきものたちは活動を始めているのでしょうか？1月や2月の観察会では感じられなかった春のきざしをみんなで探しましょう。

### ● 雪原のトレッキング

開催日時：2013年2月16日（土）10:00  
集合場所：高原の自然館  
講師：上野吉雄  
準備：基本セット、かんじき・スノーシューなど  
定員数：30名  
参加費：一般=300円  
賛助会員=100円  
正会員・中学生以下=無料  
かんじきレンタル=400円

冬の霧ヶ谷湿原を歩きます。どんな姿を見せてくれるのでしょうか？冬に活動するいきものが残した食跡、足跡など痕跡はたくさんあります。そこから分かることを上野先生が解説してください。厳しい寒さに対するいきものの知恵や、自然の威力を感じましょう。



季節はすっかり冬になり、雪や霜が降る日が日常になりました。寒さに負けそうな日もありますが、犬の散歩途中に満天の星空が見えると、寒さに身を震わせていても「寒い季節も悪くない」と思えてしまいます。そんな瞬間は、コタツや布団とはまた違った、冬の魔力なんだなと感じます。本年も残り少なくなりましたが、よいお年をお過ごしください。（はたもと）

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先  
（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

[staff@shizenkan.info](mailto:staff@shizenkan.info)